



## 海辺・川辺調査レポート

■ 名 前 (ふりがな)	金 子 開 (かねこ かい)
■ グループ名	
■ 学校名	生月町立 山田小学校
■ 学 年	5 年
■ 年 齢	1 1 歳
■ お手伝いしていただいた方の名前	村川 安亨 (B & Gの先生) 金子 証 (父) 中園 成生 (学芸員)

■ レポートした場所	長崎県北松浦郡生月町 館浦漁港周辺
■ レポートの題名	漁港の整備と環境
■ 内 容	<p>ぼくの住んでいる生月の館浦漁港の様子を昔の写真をもらって、その写真の場所を探して今の様子と比べてみた。古い写真について博物館の中園先生に聞いてみたら昔は館浦の漁港は浅い砂浜がずっと続いていて江戸時代の鯨取りから昭和のまき網漁業の発展までに防波堤が作られ、埋め立てられて今のような漁港になったそうです。</p> <p>ぼくが生まれた時からすでに大きな防波堤はあったし港も埋め立てられていたので、家の目の前が海で泳いだり魚釣りをしたりすることが出来ていたなんて考えることが出来なかったけど、お父さんや博物館の先生に話を聞いてみると本当だということが分かった。今では港の整備が進んで目の前に海は見えているけど、直接海水にさわるとは難しくなっている。「世の中便利になった分、自然からは遠くなったように、港を整備して生活が海から遠くなったようなものだ。」と先生が言っていた。確かに今、橋の近くに海水浴場が出来たけど家の前で泳げたら便利だなあとと思うしいつでも泳ぎたいと思う。</p> <p>それから、魚釣りの話で最近流行ってることがあって、9月から10月にアゴ(飛び魚)が獲れる時に館浦の港の一番外側の防波堤でルアーでヒウオ(シイラ)が釣れるそう。あれだけ沖に防波堤が伸びていたら大きな魚がつれるだろうなと思った。それに休みになると島の外からたくさん釣りをする人が防波堤のいろんな場所から釣りをしている。釣りをする人にとっては、あんなにいい場所はないんじゃないかと思う。7月28日に海辺の観察会に行った。橋の近くに出来た海水浴場の近く</p>

の海岸で、牛乳パックを使った水中眼鏡やペットボトルを使った魚を獲る仕掛けを使って海辺の生き物の観察をした。最近の生月の海辺の生き物は昔に比べて少なくなっているようだ。なぜだかはっきり分からないみたいだが、港の整備や道路の整備で土が流れ込んだり、生活廃水で海が汚れるから生き物が少なくなっているかもしれないと言っていた。

今回いろいろ調べたり話を聞いてみて、今の便利な生活は止められないけど、もう少し海がきれいになって海に触れられるように港を作り直すことが出来ないかなあと思った。どこでも泳ぎたいというわけじゃないけど、海辺で遊べる場所がもっとあったほうが楽しいと思う。



館浦漁港の航空写真（丸数字は撮影場所と観察場所）

館浦湾は元々南東に開いた浅い湾入で、海岸は砂浜だった。江戸時代には宮の下（現在比売神社下の交差点付近〔写真④〕）と役所前（現在の恵比寿神社付近）に石積の波戸が築かれたが、多くの船は浜に引き上げられていた。港の様子が大きく変化するのは、大正時代から昭和初期にかけて行われた新波戸と受け波戸の工事からで、その後波戸も延長や新造がなされ、沿海部の埋め立ても進んだ。（中園 学芸員）

### ① 生月大橋が架かってる場所



生月大橋が架かるずっと前の平戸瀬戸

生月大橋が架かった今の平戸瀬戸

橋が架かってる風景しか見てないから不思議な感じがする。  
海の上にあんなに大きな橋を作ることが出来るのはすごいことだと思う。  
海岸の形がぜんぜん違う。昔は家の前はすぐに海だったということがわかった。

## ② カヌー、ボートの練習場所の近く



生月大橋の架かる前の潮見の鼻



現在の潮見の鼻の様子

防波堤もスロープもなく、古い写真を見ると大きい波が来てるので、カヌーやボートの練習なんて出来そうに見えない。

古い写真に灯台が写っているけど、橋を作ったときになくなったそうです。

## ③ 漁港から見たぼくの家の方



海の上から撮ったらしいぼくの家の方



今の港の埋め立てられたところから見た  
家の方向

この写真の古い方は、海の上から撮ったものかもしれないと言っていたので、今はかなり港を埋め立てていることが分かった。丘の上にぼくの家（神社）が見える。

#### ④ 家から見た漁港



昔の家の下の様子



今の家の下の様子

お父さんから昔は家（神社）の階段の下はすぐ海だったと聞いた。そこで、みんな泳いだり魚を釣ったりしていたそうだ。

#### ⑤ 海辺の観察会の様子



夏休みに海辺の観察会に参加した。橋の近くの海水浴場の近くで海の生き物について観察をした。みんなで取った生き物を博物館の人たちがまとめたものをもらった。